

就職ガイダンス 2025

就活スタート!

長岡でかなえる理想の働き方

2025年に大学などを卒業する学生の就職活動が本格化する3月、100社の企業が参加する市内最大級の就職ガイダンスを開催します。注目したいポイントを紹介します。

日時=3月14日(木)午前10時~正午、午後1時30分~3時30分 ※企業入れ替え制
場所=アオーレ長岡



▲申し込みはこちら

関人材・働き方政策室 ☎39・2228

働きやすくて、やりがいのある企業が大集合

ワーク・ライフ・バランスの実現や働き方改革に積極的に取り組む企業が多数参加。進化を続ける地元企業にぜひ注目してください。

新しい勤務モデルを構築 従業員の声を大切に

(株)松井組 業務部 古関 潤さん

道路除雪をする従業員から「豪雪が続くと休息が取りにくい」との声があったんです。そこで、遠慮せずに十分な休息が取れるよう検討し、勤務ルールを改良しました。みなさんの暮らしを支えるインフラ整備はやりがいがあります。ぜひ、ガイダンスでお話ししましょう!

健康面の不安を解消!

- 保健スタッフとの面談を増やし、気軽に健康相談
- 生理用品や着替えの常備など女性の健康をサポート

(株)日本精機

育児と仕事の両立を後押し

- 育児休業を6カ月以上取得した人に、夕食の宅配費用を補助
- 育休中でも昇進の対象に

(株)大光銀行

未経験者も活躍できる

- 溶接業務を基礎から学べる人材育成
- 資格取得も手厚くサポート

(株)北陸製作所

市では、優れた職場改善を行う企業を「はたプラチナ賞」として表彰しています。今年度はこの4社が受賞。



詳しくはこちら



地元で暮らせる首都圏企業6社も参加

市は令和3年から、長岡で暮らしながら首都圏企業(本社採用・同待遇)にリモートワークで勤務する「長岡ワークモデル」を推進。賛同企業は54社になり、新しい働き方を実践する人「NAGAOKA WORKER」も増えていきます。

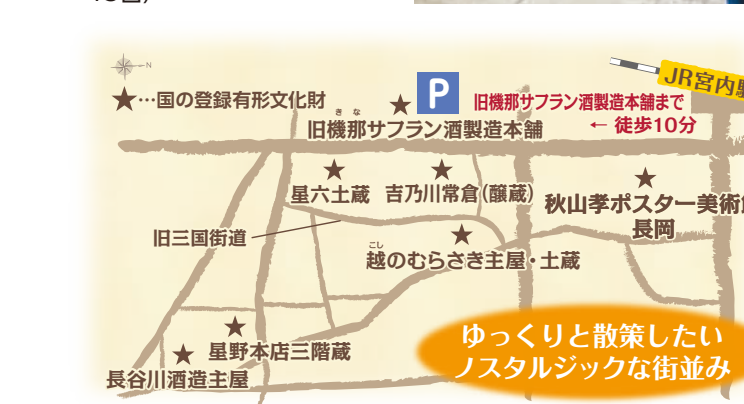
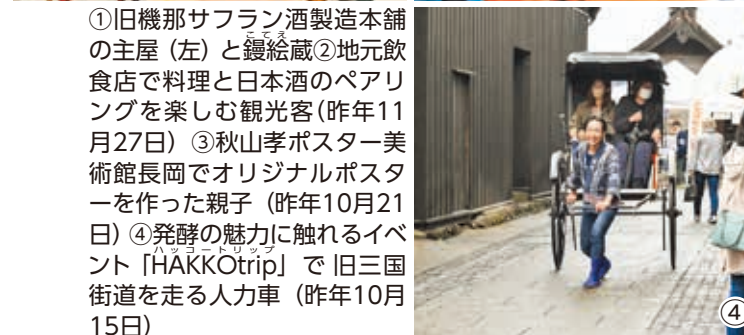


活動拠点「USEN SQUARE NAGAOKA」(東坂之上町2)

56人が活躍中
NAGAOKA WORKER

スタンプラリーで“新幹線米”をプレゼント

企業ブースを5社訪問し、アンケートに答えた人に新幹線をパッケージにした新潟県産コシヒカリ1本(300g)をプレゼント。8社訪問ですらに1本贈呈します。



①旧機那サフラン酒製造本舗の主屋(左)と饅絵蔵②地元飲食店で料理と日本酒のペアリングを楽しむ観光客(昨年11月27日)③秋山孝ポスター美術館長岡でオリジナルポスターを作った親子(昨年10月21日)④発酵の魅力に触れるイベント「HAKKOTrip」で旧三国街道を走る人力車(昨年10月15日)

住民も講師に! 発酵文化を体験

旧機那サフラン酒製造本舗・米蔵では、ぬか漬けやみそづくりなどの発酵文化に触れるワークショップを開催しています。地区の住民や蔵元などが講師を務めます。

★今後の開催は決まり次第、米蔵ホームページ(右)でお知らせします



地域の食や発酵の文化を学びたいという坂詰さんの熱意に心を打たれて、講師をしています。参加された方も仲良くなり、講師をしていて楽しいです。たくさんの方に発酵の魅力を知ってほしいですね。

▲ぬか漬け作りなどの講座で講師を務める八木紀子さん(右)と講座を企画するミライ発酵本舗(株)の坂詰夏鈴さん

撰田屋・宮内エリア

まちの魅力アップ地域みんなで

関観光企画課 ☎39・2344

「醸造・発酵のまち」としてにぎわう撰田屋・宮内地区で、住民や観光事業者、金融機関などで構成する「撰田屋・宮内エリア観光まちづくり協議会」が発足しました。地区の魅力を引き出すため、協議会を中心に旧機那サフラン酒製造本舗の活用や空き家を利用した店舗の出店支援などを検討します。隣接する逢平・山古志地域と連携し、何度も訪れたいような体験型の観光コンテンツも企画。住民も観光客も事業者も笑顔になる持続可能なまちを目指します。

醸造・発酵のまちを楽しもう

歴史ある建物や街並みが残る撰田屋・宮内地区。人と人との出会いが生まれる新たなまちの魅力に、ぜひ触れてみてください。



▶長岡の醸造・発酵文化をPRするマスコットキャラクター「みっそん」(右)と「しょーゆーん」

農業高校生が造った日本酒 販売中!

長岡農業高校の生徒が長谷川酒造などの協力で、酒米の栽培から日本酒造りに挑戦。お世話になった人への感謝の思いを込めて造った大吟醸「〇結」は原信宮内店などで数量限定で販売中です。

夏の猛暑の中での酒米栽培など、大変なことも多くありましたが、たくさんの方の協力で完成しました。地域のみなさんをはじめ、多くの方に味わってもらえると嬉しいです。



▲長谷川酒造(株)代表取締役・長谷川葉子さん(中央)と長岡農業高校作物生産コースのみなさん